

Topic 47

米国インディアナ州の VCP

- 1) こんなところです
- 2) インディアナ州の VCP

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。今週はインディアナ州にスポットを当ててブラウンフィールド再開発をみてみます。

1) こんなところです

五大湖の1つ、ミシガン湖の南東岸に隣接しているインディアナ州。先週ご紹介したイリノイ州の東隣に位置しています。同州は1816年12月11日、19番目に米国に加入しました。州の総人口は約630万人弱（2005年）、人口密度は約70人弱/k㎡、州都および最大都市はインディアナポリス市です。

州名と州都名に「インディアナ」という言葉が共通して使われています。これは「Land of the Indians（インディアン地）」を意味します。その昔、五大湖は豊かな漁場であったといわれていますから、ネイティブ インディアンはここで釣りをしながら生活していたのでしょう。現在ではネイティブ インディアンが同州の人口を占める割合は全体の約0.3%足らずとなっています。

五大湖周辺は鉄鉱石、石炭等の鉱物資源にも恵まれており、スチール生産、自動車、化学薬品等の製造業が発達しました。インディアナ州の北西部のミシガン湖岸は、先週ご紹介した「シカゴランド」の一部であり、人口が比較的高い地区です。

一方で、インディアナは米国穀物生産地帯「コーン ベルト」に位置しており、地平線が広がる大規模なフィールドでトウモロコシや大豆をはじめ各種農産物が栽培されています。面積的にいえば、農業用地や森林が占める割合が非常に高い州なのです。

2) インディアナ州の VCP

同州の自主浄化プログラム（VRP）は1993年に施行され、その後、インディアナ州環境管理局によって運営されてきています。このプログラムのもとで汚染サイト浄化を実施するメリットは、これまでご紹介してきた他州のVCPと同様、財政インセンティブ（助成金、低金利ローン、税控除など）や環境責任からの保護（州からの免罪符）を受けることができることです。ちなみに、VRP登録から浄化完了までのプロセスは、およそ6-24ヶ月だそうです。

同州HP情報によると、VRPに登録される典型例は次のようなサイトです。

- ・ 活動中または手放された工業用地
- ・ 石油が貯蔵されている施設
- ・ 商業用地
- ・ ガス生産工場
- ・ 未開発な農業用地

さすがコーンベルトに位置している州ですね。農業用地が自主浄化プログラムによって浄化されています。この事実から推測されるのは、化学肥料、除草剤、殺虫剤、あるいはもらい汚染によって汚染された農業用地が存在すること、そしてそれらの土地を VRP を利用して再開発する必要が生じているようです。

HP には 1993 年から 2003 年の約 10 年間プロジェクト実施結果が発表されていますので、その一部をご紹介します。

- ・ これまで VRP に申請した全サイト：528 件
- ・ 現在 VRP 登録中、あるいは完了したサイト：451 件（登録不可となったサイトが 77 件）
- ・ 浄化プロセス中のサイト：291 件（2003 年）
- ・ 州のプロジェクト管理者と担当物件数（2003 年時点で浄化中のサイト数）

Chris Bauer さん 38 物件

Richard Harris さん 55 物件

Damon Ridley さん 40 物件 などなど、以下省略。

（ウェブサイトには 9 人のプロジェクト管理者名と担当物件数が記載されています）。

如何でしょうか。州に 9 人のプログラム管理者がいて、各管理者が数十物件を担当しているようです。結構な数ですよ。これだけの数をこなすために、どのような仕組みのもとで業務を進めているのでしょうか？そして担当者のフルネームが公開されています。どの程度の責任を抱えてお仕事をしているのでしょうか？もしも日本独自のブラウンフィールド自主浄化活動が始まったら、具体的な仕組み、仕事効率、人材等に関して考えていくことが必要になるのではないのでしょうか。いろいろ疑問はつきません。

来週は、自動車産業で有名なミシガン州の VCP をご紹介いたします。

Thanks God It' s Friday!

Thanks God It' s Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 (t.sato@ers-co.jp)

坂野のつけたし (banno@ers-co.jp)

Nickname -- 「The Hoosier State (インディアナ州に住んでいる人をこう呼びます。起源には諸説あり。Hoosier さんという立派な人の名前から、とか、そこにいるのは誰?--Who is there?--から、とか) 」 「Crossroads of America (アメリカの十字路。州内をメジャーなハイウェイが交錯している) 」

事例紹介 -Indianapolis (インディアナポリス) : ガソリンスタンドが花屋になる。自動車の洗車場が図書館によみがえる。タイヤ工場が倉庫や商業、住居用途に生まれ変わる…。インディアナポリス市のブラウンフィールドプログラムのホームページ

(<http://www6.indygov.org/dmdplan/brownfields/success.html>) で見つけたサクセスストーリーの一例です。インディアナ州のプログラムも見てみましょう

(<http://www.in.gov/ifa/brownfields/>) 。ちょっと驚くのは、ブラウンフィールドプログラムが環境保護局とかではなく、Finance Authority (財政公社とでもいいでしょうか) のページに出てくることです。もちろん、州には環境管理局があって、上記のようにVCPが運用されていますが、「プログラムを使ってください。そのためならどんな努力も厭いません」という気持ちが、これまで見てきた州のどこよりも強く伝わってきます。その理由は、もしかすると 1976 年から 1991 年までインディアナポリス市の市長を務めたWilliam Hudnut氏の功績にあるのかもしれませんが。日本政策投資銀行のホームページの中

(<http://www.dbj.go.jp/syutoken/seminar/p20030709.html> 日本語です。) に第 1 回市長フォーラムの議事録がでています。フォーラムの議長はHudnut氏。行政側のリーダーシップもブラウンフィールド事業の成功には必要なのでしょう。